Teaching　Portfolio　2021

佐賀大学医学部看護学科
古野貴臣

目次

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2. 教育の理念・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
【私の教育の理念】
【理念を抱いた経緯】
【教育によって期待すること，目的】
【目的の達成によって将来期待していること】
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
【概要】
【講義・演習・実習について】
【ポジティブフィードバックの実践】
【コンサルテーション技術の活用】
【学部生以外への取り組み】
4. 教育を改善するための努力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
【自身の研鑽】
【学生に関する情報共有】
【実習施設との協働】
5. 教育の成果・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
【学部生の評価】
【学部生以外の評価】
6. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
【短期目標】
【長期目標】
7. 添付資料・参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

1. 教育の責任

看護師を養成している教育機関においては，看護師国家試験は切っても切り離せない．看護系大学・専門学校では，この国家試験を軸にカリキュラムが構成されている．

私は現在，佐賀大学医学部の在宅看護領域の教員として，看護師の育成に関して教育の責任を担っている．看護の基礎となり，対象の捉え方や技術の提供について学ぶ「基礎看護」と，地域で生活している人に対する看護について学ぶ「在宅看護」に関する授業を担当している．

対象者	科目名	対象学年	種別	単位数	対象者数
学部生	在宅看護援助論	2 年生	必修	2 単位	60 名
	家族看護論	2 年生	必修	1 単位	60 名
	在宅療養者のヘルスアセスメント	2 年生	必修	2 単位	60 名
	基礎看護技術 I	1 年生	必修	2 単位	60 名
	基礎看護技術 II	1 年生	必修	2 単位	60 名
	基礎看護技術 III	2 年生	必修	2 単位	60 名
	クリティカルシンキング論	2 年生	必修	1 単位	60 名
	看護過程論	2 年生	必修	1 単位	60 名
	在宅看護実習	4 年生	必修	2 単位	60 名
	基礎看護実習 I	1 年生	必修	1 単位	60 名
	基礎看護実習 II	2 年生	必修	2 単位	60 名
	統合実習	4 年生	必修	2 単位	8 名
大学院生	論文に係る研究指導				
近隣病院の看護師	佐賀大学看護教育支援センターによる研究支援				
高校生	ジョイントセミナー（出張講義）				
衛生管理者等	産業保健総合支援センターの研修				

2. 教育の理念・目的

【私の教育の理念】

私は，**主体的に継続した研鑽ができる看護師を養成したい**と思っている．主体的な研鑽とは，自分の課題を明らかにしながら，臨床実践能力を高めるように学習・成長できるよう努めることを指す．

【理念を抱いた経緯】

大学教員になるまでは，病棟で看護師として勤務をしていた．日々わからないことが多かったが，学習を継続しながら，どのような看護が患者にとって望ましいかを考えるようにしていた．自分なりに良い看護ができた，患者からいい反応が合ったと感じた際に，面白さを感じてより考え，工夫をするようになった．このような経験は，私自身がより良い看護を提供しようと研鑽した結果であると感じた．

以降は私自身がスキルを磨き，うまくいったと思うようになるたびに，より仕事が面白くなった．しかし，すべてのスタッフが必ずしもそうではなく，業務をルーチン化している人も多かった．また，仕事に面白さを見出せず，一生懸命頑張っていても成果を感じずに長続きしない人もいた．

やはり，患者に対してはより良い看護を提供したいこと，せっかく一生懸命頑張るなら報われてほしいと感じた．そのためには，自身で主体的に研鑽し，臨床実践能力を高めることは不可欠であると感じた．このことから，このような理念を抱き，大学教員の道を志した．

【教育によって期待すること，目的】

主体的に研鑽できる学生を育てるのは，臨床実践能力を高め，将来的に質の高い看護を提供できる看護師になってほしいためである．看護の質に関して様々な考えがある．患者にとっても受け止め方は異なるだろう．しかし，それは十分な看護師としての能力を有し，患者のことをしっかりと考えたことで提供された看護であることが，質の高さの前提だと思っている．したがって，学生が主体的に継続して研鑽し，身につけた臨床実践能力を活用し，患者をとらえようと考える能力を培うことが重要であり，そのような前提条件をクリアできる学生を教育していこうと思っている．そのような能力を有した学生がそれぞれ考えた最良の看護，それが質の高い看護ではないかと思う．様々な視点でとらえられた質の高い看護は，**患者の健康に関する意識や行動を変容させるきっかけになるのではないかと思っている**．

高い臨床実践能力の獲得にむけて主体的に継続した研鑽を行うには，１）看護に対する興味や関心を持つ，２）自分の課題を明確にすることが重要であると思っている．看護に対する興味や関心を持てば，それが学習動機となり，主体的学習を継続できる，また，自分の課題を明確にし，改善していくことで，臨床実践能力が高まると思っている．興味や関心とは，学生が自身の強みや長所に気づき，持っている能力をより伸ばそうとするきっかけになり，課題を明確にすることは短所に気づき，自分に足りないものを補うきっかけになると捉えている．

・目的１）看護に対する興味・関心を持つために

看護に対する興味・関心を持つためには**成功体験の積み重ね**が重要であると思っている．実際に自分で考え，必要な看護を実践してみて，成功できたと感じることができれ

ば，自分行ったことに自信を持つことができ，うれしい，楽しいなど肯定的な感情を抱くのではないかと思っている．それは，看護の面白さを知り，興味や関心を抱くきっかけになると思っている．そして，できたことやうまくいったことは，その人が持つ強みによって引き出されるだろう．興味や関心を持つことは，学習や新たなチャレンジへの動機となり，主体的に研鑽するためには重要な要素であると考えている．そのためには，学生が成功体験を積み重ねることができるよう，そのような機会を設定することが重要だと思っている．

・目的２）自分の課題を明確にするために

自分の看護でうまくいかなかったことがあっても，頭を悩ませながらその人に対する良い看護を考えることは，課題を明確にし，看護師としての能力を高めるチャンスであると考える．

課題を明確にするためには，**自身での気づきと他者からの指摘が必要である**と考える．何らかの壁にあたり，悩み，考える機会が自身で課題に気づくためには重要なきっかけだと思う．また，自分では大丈夫と思っていても，傍から見るとまだ改善の余地があることは多いだろう．そういった場合に周囲からの指摘がなければ，自分で課題に気づくことは難しいだろう．また，他者の意見を柔軟に取り入れることも重要である．

【目的の達成によって将来期待していること】

私の教育理念にもとづき，継続した学習や，主体的に考えることができる能力を身につけ，看護師として勤務を始めてもさらに成長し，その学生が考える最良の（質の高い）看護を提供できるようになることを期待している．

私はあくまで一つの教育機関の教員であり，関わる学生数に限界はあるが，このような学生が育つことで，直接教育していない周囲の看護師に影響することを期待している．ロジャーズの普及学（1962）を参考に考えると，その学生がいずれ高い看護実践能力を有し，中心的役割を担えば，その学生の考え方や自己研鑽法が周囲に普及するかもしれない．そうすることで，その学生を中心にその組織全体で高めあい，広く看護の質向上に貢献できるのでないだろうか．

参考文献

E.M. Rogers 著・青池愼一・宇野善康監訳；イノベーション普及学，産能大学出版部，1990 文献

3. 教育の方法

【概要】

看護学は，基礎看護学，成人看護学，小児看護学，母性看護学，在宅看護など，対象に合わせて領域が隔てられている．しかし，「患者のことを中心に考え，その人の抱える問題や強みを明らかにする」という点は共通していると考え，最も重要な要素であると思っている．

そこで，講義による知識の習得だけでなく，学生には必ず対象者を設定して考えてもらう，という演習を課している．学生にはその対象のことを考えながら悩み，自分の考える最良の看護を検討できる能力を身につけることが重要であると考えている．

また，講義と演習は，必ず実習を見越して一貫して組み立てることが重要であると考えている．様々な領域の実習を経験することは，学生が興味を持つ分野を知る機会になると思っている．

これらを踏まえて教育を行う際，いくつか心がけていることがある．それらについて記載していくこととする．

【講義・演習・実習について】: 参考資料 1~3

・興味や関心を引く教育の内容

講義・演習・実習では，可能な限り私の経験をもとにした情報を提供している．経験上，教科書のように患者に介入できないことが多い．しかし，患者のことを適切に分析する過程が重要なのは変わりない．そこで，現場で働いていた経験をもとに，私なりに興味がわいた事例や，うまくいった・いかなかった事例などを紹介し，学生の興味も引くことができるようにしている．

・看護の具体的な想像により，興味・関心，課題の明確化をすすめる

基礎看護技術I～IIIは，患者役と看護師役を体験しながら，実際に経験してうまくいったこと，できなかったことから課題を考察させている．

クリティカルシンキング論・看護過程論では，看護の対象者が抱える問題点を焦点化できるよう，架空事例を設定してグループワークを行っている．

在宅看護援助論と家族看護論に関しては，基礎看護技術や看護過程とは異なり，在宅における看護，という各論になる．そこで，在宅医療や看護に関する講義を行い，基礎看護技術や看護過程論などを応用して事例演習に取り組むことができるよう，事例の内容とワークシートを工夫している．

これらの授業を経て，基礎看護実習II，在宅看護実習が行われる．それぞれの実習では実際の患者を受け持たせてもらい，これまで学んだ基礎看護技術，クリティカルシンキング論・看護過程論，在宅看護援助論・家族看護論の知識と技術を活用し，看護技術の体験や患者の抱える問題の焦点化を行う．

このように，講義・演習・実習を一貫させ，連動させることは学生が将来行う看護を

具体的に想像しやすくなり，興味や関心を抱きやすく，課題を明確にするきっかけを作ることができると考えている．

・学生に新たな知見を提示し，興味や関心をひきながら課題に気づいてもらう

演習や実習を終え，レポートがまとまったころに，私が考える患者の問題点や看護の方向性についてプレゼンをするようにしている．この際，学生の意見をとりいれた患者の問題を提示し，考え方は間違っていなかったことを強調している．学生の意見を尊重し，良かった点を評価することで，学生の成功体験になることを期待している．この際，学生にとっては目から鱗になるような考え方を提供できるよう，私なりに近年の論文や医療情勢について理解するなど，研鑽しながら対象者への看護を考えている．違った知見から患者の問題点を示すことで，自身で気づけなかった点から課題を検討してもらう機会になればいいと思っている．

【ポジティブフィードバックの実践】

ポジティブフィードバックは，一見できていないように見えることから，1つでもいいところを引き出し，相手にフィードバックすることである．そのため，まずは私が学生の行っていることに興味や関心を持ちながら，できているところとできていないところを明確にし，学生が提示した患者の問題やプレゼンに関して，ポジティブフィードバックを行うようにしている．

・自身の体験だけでなく，周囲のフィードバックで成功経験を積み重ねる

実践したことの成功を自覚するだけでなく，周囲からフィードバックを行うことは，学生が気づかなかった点への気づきを促し，新たな成功体験を経験できると思っている．

・うまくいった点とうまくいかなかった点を整理し，課題を検討する

ポジティブフィードバックを行うということは，うまくいった点だけでなく，うまくいかなかった点を整理でき，自身の課題を検討する機会にもなると思っている．

【コンサルテーション技術の活用】

コンサルテーション技術とは，いわゆる問題解決に向けたコミュニケーション技術である．看護師としての経験で培った技術であるが，「悩み事を訴える人は実はすでに解決策を考えているため，その決定を支援する」といった考えで，対象者の考えを引き出し，自己決定を促す技術である．

・学生の考えを尊重して成功体験の積み重ねる

コンサルテーションによって学生がどのような思考を踏んだかを一緒に考えるため，学生自身がしっかりと考察できていた点に気づくことができる機会になると思っている．また，看護の方向性が大きく逸れていなければ，その考えを尊重するようにしている．そうすることで，学生にとっては成功体験を積む機会になると考えている．看護の選択肢は多岐に渡るため，実習終了後など，一段落付いた後に別の視点からのアドバイ

スを行うようにしている．

・リフレクションによる課題への気づきを促す

コンサルテーションを行うことは，学生にその場で考える時間を設け，考えたことを深く掘り下げる機会になる．その内容に関する助言と，私が課題とすべき点を指摘するようにしている．指導にコンサルテーション技術を活用することで，学生自身のリフレクションになり，課題への気づきになると思っている．

【学部生以外への取り組み】

修士課程の学生に対して，研究指導を行っている．学部生と同様，研究能力を磨くために主体的に研鑽できるよう，ポジティブフィードバックやコンサルテーションを行っている．

病棟で勤務している看護師を対象に，研究支援を行っている．初めて研究に携わる看護師を対象としていることから，ポジティブフィードバックやコンサルテーションを行ってまずは興味・関心を持つことができるように指導している．

4. 教育を改善するための努力

【自身の研鑽】

演習や実習で，看護を提供しようとしている学生を指導するためには，教員がその対象が抱える看護上の問題を焦点化できなければならない．したがって学生の良いところを探し，課題を指摘するためには，学生の行っている看護を理解できる教員自身の能力が必要であると思っている．つまり，教育力に加え，教員自身の看護における臨床実践能力が必要であり，学生だけに研鑽を押し付けるのではなく，教員自身が成長していかなければならない．医療の情勢は日々目まぐるしく変わり，私の臨床で培った知識も形骸化する可能性もある．そのため，社会のニーズを教育にも反映できるよう雑誌，論文などを通じて医療・看護の新しい情報を得ることに加え，看護の実践家からの情報収集を行うように努めている．

教員の高い教育力と臨床実践能力に基づき，学生の行った看護の一部でも成功体験とできるよう，真摯かつ的確に指導することができれば，いずれは学生との信頼関係を構築でき，より効果的な教育ができると思っている．そういった意味では，私の考える質の高い教育を目指し，教員自身も学生教育に対して興味関心を持ち，学生を尊重しながら真摯に関わっている．

【学生に関する情報共有】

他の領域の教員と学生に関する情報を共有している．学生がどのように授業や実習に臨んでいるかを知ることで，ポジティブフィードバックやコンサルテーションに向けてその学生の強みや特徴を理解するよう努めている．

【実習施設との協働】

看護学生における成功体験を重ね，課題を明確にするためには，様々な場面でトライアンドエラーを経験することが重要であると考えている．学生は国家資格を持たない以上，実習などでできることには限界がある．しかし，その中でも様々な工夫は可能であり，成功体験を積み重ね，課題に気づくチャンスは大いにあると考えている．そこで，学生が様々な経験ができるよう，実習施設の指導担当者と密に連携し，可能な限り多くの経験ができるよう協働しいくように努めている．

5. 教育の成果・評価

【学部生の評価】:

2020 年度に担当した授業の授業評価を掲載する。

科目	平均点
在宅看護援助論	4.3
在宅療養者のヘルスアセスメント	4.6
基礎看護技術 I	4.7
基礎看護技術 III	4.6
クリティカルシンキング論	3.8
看護過程論	4.1
在宅看護論実習	4.6
基礎看護実習 II	4.4
統合実習	4.4

このように，概ね良好な授業評価を得ている。コロナ禍における遠隔授業により，グループワークが困難であった科目に関しては授業評価が低くなってしまったが，2021 年度には 4.3 点と改善している。

【学部生以外の評価】

大学院生の研究指導の結果，以下の論文・報告書としてまとめることができている．

1）鎌田ゆき，藤野成美，古野貴臣他．精神障がい者アウトリーチ実践自己評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討．日本精神保健看護学会，29（1），2020

2）高野佳範，藤野成美，古野貴臣他．急性期病院で勤務する看護師の認知障害高齢者に対するパーソン・センタード・ケアを目指した看護実践とその関連要因，インターナショナル nursing care research，18（1），2019

3）重度要介護者を介護する娘介護者における在宅介護継続を支える認識，梅野朱美，藤野成美，古野貴臣他．公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団在宅医療研究への助成完了報告書，2017

6.　今後の目標

【短期的な目標】

コロナ禍において，教育においては十分な工夫や配慮が求められる。現時点で，授業における評価は良好であったが，今後の学生の臨床実践能力の向上が十分であったかは評価が必要である。柔軟な対応を心掛けながら，学生の主体的な学習状況や実践能力に関して評価を行っていく．

【長期的な目標】

学生とは卒業後もつながりを持ち（実習施設で勤務しているため十分可能），私が描いている看護師像に学生が成長できているか評価し，自身の教育に反映する．これに向けて，社会人として継続教育を開始した看護師に対する教育効果を確認できるような教育指標も検討する必要があると思っている．実際に働いている卒業生とかかわりながら，どのように自身を研鑽し，臨床実践能力を高めているかを整理する．

7.　添付資料・参考資料

資料 1：シラバス
資料 2：授業資料
資料 3：講義で作成したワークシート
資料 4：授業評価アンケート
資料 5：論文一覧